

母の呪い

1 馬小屋の戸口でウイリーが

馬をあやしなから

白い指を眺めたら

鼻血が流れだしました

2 「馬に小麦をやってください お母さん

小姓こしょうに肉をやってください

ぼくはマギーの家へ行きます

マギーがまだやすまぬうちに」

3 「おお 今夜はわたしといておくれ

今夜はわたしといておくれ

鶏小屋で一番のおんどりを

夕食に出してあげましょう」

4 「どんなに立派なおんどりも

ちつとも欲しくはありません

ぼくはマギーの家へ行きます

マギーがまだやすまぬうちに」

5 「おお 今夜はわたしといておくれ ウイリー

今夜はわたしといておくれ

家畜で一番の羊を

夕食に出してあげましょう」

6 「どんなに立派な羊も

ちつとも欲しくはありません

ぼくはマギーの家へ行きます

マギーがまだやすまぬうちに」

7 「おお わたしの願ねがいをつれなく蹴けって

あの娘むすめの家へ行くのなら

クライド川の川底で

わたしの呪いを受けるでしょう」

8 「ぼくが乗って行くあの馬には

九十ポンドを支払った

あのすばやい足は頼れます
きつと川を渡れるでしょう」

9 高い高い丘を越え

暗い谷をおりてゆく

クライド川の川音に

多くの人がおじけづく

10 「おお 吠えたけるクライド川 おまえは大声で吠えている

おまえの流れはとてもきつい

殺るなら帰りに殺っておくれ

けれども往きは通しておくれ」

11 かくしてマギーの家についたとき

ウィリーはノッカーをたたきました

「眠っているかい おきているかい マギー

開けて中へ入れておくれ」

12 「戸口でわたしの名前を呼ぶのは

誰かしら」

「おまえの初恋の人 ウィリーだ

今夜こうしてやって来た」

13 「家の外にも 家の中にも

恋人なんかいないはず

わたしの一番の恋人は

昨日おそくにここへ来ました」

14 「一番そまつな馬小屋でいいから貸しておくれ

ぼくの馬がやすむため

一番そまつな部屋でいいから貸しておくれ

ぼくがそこでやすむため

ぼくの長靴はクライド川の水でびしょ濡れだ

顎がぶるぶる震えている」

15 「納屋は小麦でいっぱいよ

馬小屋は乾草でいっぱいよ

部屋は尊とつといお方でいっぱいよ
みなさん朝まで帰りません」

16 「さようなら つれないマギー
さようなら お別れだ
母さんの呪いを忘れていた
今夜ここへ来るときに」

17 高い高い丘を越え
暗い谷間をおりて行く
クライド川の激流に
ウイリーの鞭むちが流されました

18 鞍くらのまえに身をかがめ
鞭むちをとろうと必死です
クライド川の激流に
ウイリーの帽子が流されました

19 鞍くらのまえに身をかがめ
帽子をとろうと必死です
クライド川の激流に
ウイリーは馬から流されました

20 堤の上から ウイリーの兄がいました
「おい おだぶつするつもりかい
馬の頭にしがみつき
なんとか泳いで渡るのだ」

21 「どうすりや馬にしがみつき
どうすりや泳いで渡れよう
ぼくは母さんに呪われた
ここでおだぶつせにやならぬ」

22 ウイリーが川底深く
沈んだときに
恋人マギーは眼をあけて
深い眠りからさめました

23 「こちらへ来てよ こちらへ来てよ お母さん
こわい夢を占うらなつてよ
夢の中でウィリーが戸口へきたんだけれど
誰も入れてやらなかったの」

24 「静かに静かにおやすみなさい
静かにやすんでおいでなさい
おまえのいとしい恋人が
戸口へきたのは半時まえ」

25 さつとマギーは跳とび起きて
さつと着物をつけました
マギーが大声で呼べば呼ぶほどに
風が大声で吹きました

26 一歩足を踏み入れたとき
水は腫きぶすの深さです
「おお これはなんとまあ
なんと深い川だこと」

27 またもう一歩踏み入れたとき
水は膝ひざの深さです
「もつと先まで行きましょう
あの人に会えるのならば」

28 またもう一歩踏み入れたとき
水は顎あごの深さです
クライド川の底深く
いとしいウィリーに会いました

29 「あなたのお母さんはひどい人
わたしのお母さんもひどい人
クライド川の底深く
兄妹のように眠りましょう」